

夏のフルーツミックス



子どもたちは、1日1日、ものすごいスピードで体も心も成長しています。だからこそ、「いま」の子どもたちのどの部分を育てたいか、「いま」何に興味があるのかなど、子どもたちの「いま」をしっかりと考え、大切にしながら日々、保育をしています。

7,8月のねらい

さくらんぼ組…目標に向かってハイハイする(低月齢)

階段の昇り降りの姿勢変換をする(高月齢)

いちご組…水の冷たさや心地よさを感じ、水に慣れる

りんご組…棒にぶら下がったり、引っ張るなど手や腕の力を使う



りんご組

グリーンテラスでダンゴムシを一生懸命探している子どもたちの姿から、もっと身近に生き物に触れられる環境を作りたいと考え、保育室でメダカ・カタツムリを飼い始めました。保育者が生き物のエサやりや掃除など“世話”をする姿を見ることで、「おいしそうにたべてる!」「きれいになってきもちよさそうやなあ」などと、以前にも増して生き物への興味関心が深まりました。

そして今では、「おみずよごれてるなあ」と水槽の中の変化にも気づき、保育者と一緒に世話を手伝ってくれるようになった子どもたちです。

飼育を通して、生き物の“命”を感じ、大切にする優しい心が育ってほしいと願っています。



生き物を通して
友だちとの会話も増えてきました



いちご組

戸外に出ると楽しそうに走っている子どもたちの姿から、もっと楽しく走れる遊びをしてあげたい!と考え、「しっぽとり」を始めました。今は「しっぽをとる」というルールをみんなが理解しているわけではありませんが、保育者が見本となってしっぽに向かって走ることで、子どもたちも“模倣”して楽しんでいます。

それと同時に、子どもたちの体幹を育てるために毎日、室内でもマットやソフトブロックを使って粗大遊びを積極的に行い、階段の昇り降りなど全身運動を意識して保育を行っています。

このような経験から、子どもたちのダイナミックな動きも増え、成長を感じています。



さくらんぼ組

伝い歩きや歩行をし始めている子どもたちには“安定した歩行”を目指して、マットやトンネルを使った粗大遊びから、たくさんハイハイが経験できるように環境構成し、腹這いで遊んでいる子どもたちには“安定した体づくり”を目指して、好きな玩具に向かって、左右どちらにも寝返りをしたり、腹這いで移動する経験がたくさんできるように関わっています。

メキメキと成長する子どもたち。毎日が発見の連続です!



しっぽを一緒につけることで
指先の運動にもなります

